（別紙様式）　　（A３判横）

令和６年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立深谷高等学校 ）

N09

目指す学校像	「文武両道」を目指し、心豊かな生徒を地域とともに育てる学校

重 点 目 標	1　確かな学力の向上を目指し、考える力を育てる。 2　生徒の視野を広げ、地域社会に貢献できる人財を育成する。 3　規範意識を醸成するとともに教育活動全般において、豊かな心を育む。 4　保護者・地域との連携により、開かれた学校づくりを推進する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成　（8割以上）
	B	概ね達成　（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不 十 分　（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4　名
	生徒	3　名
	事務局（教職員）	6　名

学　校　自　己　評　価								学 校 関 係 者 評 価
年　度　目　標					年 度 評 価			実施日　令和7年1月31日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 幅広い学力層の生徒に対し、考える力を育てる授業の充実や、個に応じた補習や課題など、きめ細やかな指導が必要である。 【課題】 教員相互の授業研究やICT機器等の効率的な活用方法を研究する。	・基礎学力の定着（欠点補習の減少、学習到達ゾーンの底上げ） ・成績上位層の育成 ・教員間の研鑽による授業力の向上	①習熟度別授業、少人数学級編成等によるきめ細かな授業を実施し、一層の学力の向上を図る。 ②教員相互の授業観察や研究授業を実践し、授業力の向上を図る。 ③各種業者テスト実施後のフィードバックを充実させ、評価と指導の一体化を目指す。 ④各種検定を積極的に受験させ、チャレンジ精神の育成を図る。 ⑤ＩＣＴ機器（タブレット等）を活用した授業を推進するとともに、デジタル採点システム（採点ナビ）を活用した業務効率化、データ活用を推進していく。	①成績優良者、欠点保有者、成績不振に関わる転退学者の状況、生徒向け評価アンケートの諸項目での改善状況 ②教員相互の授業観察への参加率 ③学習到達ゾーンの向上状況 ④検定試験の受験者数増 ⑤タブレット、Google classroom、採点ナビなどの活用状況	幅広い学力層に対する基礎学力の定着と学びへの意識の向上を図るための実践を行った。 ①成績優良者4％増(1％減)　欠点保有者38％増　(1％減)「授業がわかりやすい」(アンケート)R6:90％(90％) ②授業見学期間を設定し、教員相互の授業見学、公開授業、研究授業の実施 ③学習到達ゾーン:約21(30)％向上 ④英語検定　15(43)名受験、漢字検定0(49)名受験、文章力検定　229(172)名受験、数学検定　8(8)名受験 ⑤採点ナビを積極的に活用し、校務のDXを図れた。	A	・特別支援的な合理的配慮や日本語の支援など、これまで以上に幅広い生徒層への学習支援が重要である。また、生徒へのICTの活用の工夫を進める必要がある。	・達成状況評価を、数値化しているのは良い取組。 ・ICTの活用は避けて通れない。講習会等を積極的に実施してはどうか。 ・採点ナビの活用はとても良い。働き方改革で有用。
2	【現状】 生徒の多様な進路希望に対し、担任・進路指導部を中心に、個に応じた進路指導を行っている。就職希望者や総合型選抜希望者が増えている。 【課題】 進路ガイダンスや説明会等を進路指導部・学年でさらに組織的・計画的に行い、希望進路を実現する。	・多様な生徒個々に応じた計画的で丁寧な進路指導による生徒全員の希望進路の実現	①二者・三者面談を実施し、生徒に寄り添い、一人一人の進路意識を向上させる。 ②各学年が進路指導部と連携し、生徒の実態に合わせた進路行事を実施する。 ③体験型研修等の進路ガイダンスを取り入れ、生徒が主体的に明確な目標を設定できるように促す。 ④ハローワークなどの外部機関と連携するとともに、就職支援員を活用し、生徒の就職活動を支援する。 ⑤4年制大学への総合型選抜、学校推薦型選抜(公募制)の受験者増加と充実した支援を行う。	①②第一志望の進路決定率95％(昨年度95％) ③1，2学年に体験型研修等の進路ガイダンスを複数回実施し、アンケート評価。 ④就職希望者の第一希望内定取得率95％(昨年度90％) ⑤小論文指導、面接指導を複数回実施。総合型選抜、学校推薦型選抜(公募制)の受験者数20名以上(昨年度14名)	組織的に早期からのキャリア教育の実践を行った。 ①②第一志望の進路決定率 91％(のべ受験校122校 合格決定数112名) ③1学年は11月にバスツアーを実施、2学年は12月に企業相談会を実施。その他進路ガイダンスを校内で複数回実施。 ④就職希望者の第一希望内定取得率70％(のべ受験企業53件、合格決定数37件) ⑤小論文指導は複数回実施。面接指導は6月、9月に実施。 大学の総合型選抜受験者18名	A	・今年度に引き続き1年生段階からのキャリア教育の充実を図る。また、就職活動を支援するための教員間のノウハウ共有を進める。	・キャリア教育で工夫している点が見えているが、大変だと思う。一定数の生徒からすると、とても良い ・中学校でも『社会貢献』『他者貢献』の意識づけをしている。なぜ？何のために？を考えさせることが重要。 ・年内入試が勝負になっている時代、英検準2級は受験に有利。もう少し生徒に伝えるべき。
		・特進クラスの特色化	①特進クラスのノウハウを学年間で継続的に実施し、さらなる進学実績の達成を目指す。 ②各検定準２級レベルの学力を身に付けさせる。 ③業者等との外部連携をさらに図り、データに基づいた学習支援を実施する。	①進路や授業への取組状況 ②各検定準２級への合格者数 ③連携状況	①公募制推薦や公務員試験などに積極的にチャレンジし、良い結果を出すことができた。 ②準2級合格　英検2(3)名　数検2(2)名 ③リクルート社と連携し、スタディーサプリの活用を昨年度以上に積極的に図ることができた。	A	・補習のあり方など、工夫を進めていく必要がある。	
3	【現状】 生徒指導部・学年を中心とした組織的な指導により、基本的生活習慣は定着してきている。 【課題】 交通事故防止に向けた自転車の乗車マナーの向上を図る必要がある。	・規範意識を醸成し、生徒主体の学校行事や部活動をとおした豊かな心の育成	①登校指導等により、自転車乗車マナーのさらなる向上や、自転車事故数の減少に取り組む。 ②授業やホームルームで全教員が一体となって組織的な挨拶・整容・遅刻指導を徹底する。 ③いじめ未然防止取組みを組織的に行う。 ④部活動の加入率・継続率を向上させ、部活動をとおして人間性・社会性を育成する。 ⑤生徒が主体となった学校行事を推進し、生徒の参画意識を高める。 ⑥ＳＣ・ＳＳＷ・巡回支援員と連携し、組織的な教育相談を充実する。	①自転車事故数の減少 ②遅刻数10%減少 ③いじめ案件の減少 ④部活動の加入率・継続率 ⑤生徒主体の文化祭等の実施 ⑥専門機関の活用状況	粘り強い指導により、生徒の基本的生活習慣は徐々に確立されてきている。 ①「交通安全指導をよく行っている」 生徒:94(89)％、保護者:91(90)％(アンケート) 「頭髪やみだしなみをきちんとしているか」 生徒:97(90)％、保護者:97(94)％(アンケート) ②遅刻者数　2.2％の増加(50.5％減) ③いじめと疑われる案件　1(3)件 ④部活動加入率　62(64)％　継続率　73(71)％ ⑤生徒主体で目安箱を設置し、寄せられた意見から、生活指導の規定の見直しや球技大会の種目変更等を行った。 ⑥ＳＣ・ＳＳＷ・巡回支援員と連携し、教育相談を定期的に実施し、中学校など外部機関との連携を図れた。	B	・ヘルメットの着用など、交通安全指導のさらなる充実を図る。 また、1年生の早い段階からSNSの利用指導を進めていく。	・達成状況から、達成していない内容もあるが、それを踏まえて来年度に活かす。 ・生徒を取り巻く環境が日々変化している。生徒に寄り添った指導をしてほしい。 ・SNSの利用に関して、犯罪に巻き込まれたりしないように、いろいろ指導をしてほしい。使い方をよく指導することが大切。 ・部活の加入率、継続率がやや低い。部活の活性化が課題の一つである。 ・近隣中学校への進路説明会の積極的な参加、上級学校訪問の受入をお願いする。 ・いじめアンケートを入念に実施する。
4	【現状】 新型コロナ影響等で地域や外部等との連携が希薄化している。 【課題】 生徒が主体となった地域や外部との連携活動を活性化させ、開かれた学校づくりの推進を図る。	・地域に根差した魅力ある学校づくりと開かれた学校づくりの推進	①学校評議員会、学校評価懇話会の意見を学校経営に反映させ、さらに具体的な施策の実施を行う。 ②学校ホームページ等を工夫し中学校や地域住民等へ逐次情報発信をする。 ③生徒による学校説明会や部活動体験等での学校ＰＲの工夫、学習塾等を対象とした説明会等への参加により、本校志願者の増加を目指す。 ④深谷市内およびその近隣を重点とする募集活動を行う。 ⑤地域のイベント等に積極的に参加し、地域との情報交換を積極的に行う。	①意見の学校経営への反映と施策実施状況 ②ホームページ等へのアクセス数の向上 ③学校説明会来場者数の増加、志願倍率1.0倍（10月段階） ④深谷市内中学生の志願者数の増加 ⑤地域との交流の実施状況	地域イベントへの参加、インスタグラムの導入など積極的に地域連携、情報発信を行った。 ①カーブミラーの設置など学校評価懇話会での提案を実現することができた。 ②インスタグラムの導入を図ることができた。 ③学校説明会について 来場者数898(867)名 志願倍率0.79(0.86) ④深谷市内中学生志願者数4％の増加(25%減) ⑤深谷魅力フェスタ、宿根地区夏祭り等の地域イベントに参加し、地域から好評だった。	A	・今年度同様、積極的に地域との連携を図る。 また、HP、インスタグラムの記事を学校全体で公開していく、仕組みづくりをさらに進めていく。	・通信高校への入学希望者の増加。本当に通信制でよいのか？『通って学ぶ』ことの必要性、大切さを訴える。 ・生徒、教員、地域の様々な意見、要望を聞くことは大事。魅力の発信等に、生徒の意見をうまく活用していく。 ・地域連携は良好。 ・入試志願者倍率の向上。 ・部活動の再強化。